

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEGONKids eit		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職が多く在籍している。心理・言語・保育・身体機能にアプローチできる職員が揃っている。多職種で情報共有を行い、利用者一人ひとりの特性に応じた支援を検討できる体制がある。	多職種の専門分野における内容について質問・相談をして、利用児の理解を深めている。モニタリングで聞き取ったニーズに合わせて、それぞれの視点から支援内容を検討している。	専門職の知識や支援内容などを内部研修等を通して、職員間で共有する機会を設けていく。
2	施設内が広く、個室が複数あることで活動の内容や特性に応じた適切な環境で支援ができる。広い運動ルームを設けている。	児童が部屋の用途を理解しやすいよう、走る等の激しい動き、集団活動は運動ルームで実施することを徹底している。学習を行う際は必要に応じて個室に入り集中しやすい環境を提供できるよう配慮している。運動ルームにおいては時間帯で使用人数を決め、安全に過ごせるよう工夫している。運動ルームでの活動では前半は基礎トレーニング、後半は自由活動とし、身体機能の向上だけでなくコミュニケーション能力の向上も図っている。	運動ルームや学習室だけでなく、その他の個室についてもプログラムを用意し活用していく。視覚的支援を充実させて、利用児童が目的を理解しやすい環境整備を行う。
3	集団生活への適応を目的としたSSTの実施をしている。	平日については毎日、SSTの時間を設けている。活動内容・参加人数・ノルマ等を活動開始前に事前に設定し、参加児童ごとに応じた目的・目標を設定している。	土日祝は、体験学習が中心となっているため、平日に利用がない児童へもSSTの実施ができるようスケジュールリングを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会などの保護者の交流の場を設けることができていない。	スケジュールの確保が難しい。保護者会のテーマや方向性を決めかねている。	保護者へのニーズ確認の実施。
2	災害時、緊急時のマニュアルやBCPについての取り組みを十分に保護者へ共有できていない。	定期的な避難訓練の実施はしているが、参加していない児童やそのご家族への共有の機会がない。	マニュアルや取り組みについて面談時にお知らせしたり、SNS等を活用して発信していく。
3	地域との関わりが少ない	地域イベントに参加することはあるものの、個人情報の観点から地域との関わりが持ちにくい場面がある。 小中学校や福祉機関との協力関係が十分に築けていない。	関係機関と支援についての情報共有を行う。小中学校への訪問も積極的に実施し、学校との連携を強化する。子ども支援部会等に積極的に出席する。